

第29回 第2章 現代の経済

第4節 福祉社会と日本経済の課題

農業・食料問題

講師
赤荻雅己

学習のねらい

私たちの「食」を支える日本の農業にはさまざまな課題があります。農業に携わる人が減っていること、輸入食料に押されていること、そして農業政策はどうなっているのか、こうしたことを学びながら、これからの農業について考えていきましょう。

調べておこう
覚えておこう

六次産業化／農業従事者の高齢化／食料自給率／
耕作放棄地／食料・農業・農村基本法／食料安全保障／
減反政策／食糧管理制度／ウルグアイ・ラウンド

※下記の空欄 _____ を「調べてみよう 覚えておこう」の語句で完成させましょう。

POINT 1

日本の農業の今は？

現在農業で働いている人は約168万人で60年前の高度経済成長のころと比べると8分の1に減りました。さらに後継者が不足して、^① _____ が進んでいます。現在、農業で働いている人の7割が65歳以上で平均年齢は67歳となりました。こうなった理由は農業の収益性が低いからです。さらに作物を植えなくなった^② _____ が増え、60年前と比べると、日本の田畑の面積は3割減りました。地方では農業と関連する食品加工が経済の中心となっている市町村も多く、こうした農業の衰退は地方経済の衰退をもたらしています。

POINT 2

農業政策の歩み

食料を安定して供給するため、食料自給率を高めようとする考え方を^③ _____ といいます。

第二次世界大戦後、^④ _____ が運用されました。政府が米の売買を管理する制度で、政府が生産者から米を買い、消費者に安く供給するしくみでした。この制度は、農家を支えるとともに、第二次世界大戦後の窮乏した国民の生活を救いました。しかしその後は食の多様化から消費者の米離れが進みます。政府の負担が大きくなったことから、この制度は1995年に廃止され、以降、米の価格は市場に委ねられるようになりました。

米が余るようになると、1970年代から^⑤ _____ が始まりました。水田の作付けを制限し、他の作物への転作を促す政策です。この政策は米作りとともに野菜や果樹など多角

的に経営する農家を増やしましたが、他方で米作りの意欲をそがれた農家も多くいました。長く続いたこの政策も 2018 年に廃止が決まりました。

GATT (関税と貿易に関する一般協定) の^⑥ _____ の合意により、量はわずかですが、1995 年から米の輸入が始まりました。他方で、小麦、大豆、畜産飼料用のトウモロコシは大きく輸入に頼っています。こうしたことから、近年、日本の^⑦ _____ は低下してきてカロリーベースで 40%を割っています。

一方、EU 諸国では農業の保護・育成に努めています。日本は、1999 年に^⑧ _____ を制定し、輸入に頼った現状を反省して、食料の自給力を高める目標が掲げられました。しかし食料自給率は依然低いままです。そして農産物の自由化を一層進める協定が結ばれました。それは 2018 年に発効した環太平洋経済連携協定 (TPP) とアメリカとの間で結ばれ 2020 年に発効した自由貿易協定 (FTA) です。これらの協定は、自由貿易を一層進めることで、安価な農産物がさらに輸入され、日本の農業は大きな打撃を受けると予想されています。

POINT 3

これからの農業を考えよう

農業の大規模化が進んでいます。農地を集約して効率性を上げ、収益を向上させる取り組みです。また地域に根差して自給力を高める動きも進んでいます。たとえば農産物の直接販売所です。生産者が集まり地域で作られた農産物を販売するところで、新規就農者も多く参加しています。さらに生産者が加工、販売まで手がける^⑨ _____ の取り組みも各地で生まれています。こうした取り組みは、地方の経済を活性化するとともに、農村を再生します。農村には自然環境を保全し、伝統文化を継承するという、大切な役割があります。農村の再生はこの視点からも意義のあることです。

Blank lined area for student answers.

Answer key box containing terms: ①農業従事者の高齢化 ②耕作放棄地 ③食料安全保障 ④食糧管理制度 ⑤減反政策 ⑥ウルグアイ・ラウンド ⑦食料自給率 ⑧食料・農業・農村基本法 ⑨六次産業化